

ふるさとって！

『ふるさと』。みなさんはどのようにお考えですか。

遠くの地と思う人、車や電車で2、3時間のところを思う人、人それぞれふるさとがあると思います。

私の住まいは、鷺別ですがここはどろろでしょう。昔からこの町は、ベッドタウンとして栄えてきたと思うのですが、朝の通勤や通学の人並みが去った後の風景、何か物足りないような気がしませんか。当然ながら、私も仕事に出ますから、後の事はよく分かりませんが、不景気や季節も手伝ってか、しらすけ気味のような気がします。

2001年2月、保育園や幼稚園、また、まち中を鬼が出歩いていました。驚いたね。

夏、小学生が街路樹の下、ほんの小さなスペースを花でいっぱいしていたね、歩いてて気持ちが良いよね。中学生は神社山に、桜やつつじ、どんぐりの苗を植えてたような、20年後が、楽しみだね。夏祭り、小学生たちの熊舞いがよかつたね。もつと多くの仲間と、観客がいると最高だよ！8月、焼き鳥食べてビールも飲んで、花火が上り、うーん夏も終りかなくなて思ったりして。大晦日、神社に行くと甘酒が飲めたりして、大人も子どももい顔してる。願いがかなうと良いね。あらっ、なんだかいまちみたい。でもちよつと寂しい。私たちの行う事業は、ほんのお手伝いにか過ぎません。



▲鷺別七夕まつり

未来にあるべく、ぬくもりや活気あるまち。それは、今現在、ここで生活する人の思いが可能とするのかも知れませんね。自分の住んでいるまちを、第2のふるさとにしてみても面白いかも、ふるさとの思い出づくり始めませんか。

ちよつとした気持ちだが、この見かたを変えてくれるはず。
2002年、今年もちよつとだけ、ふるさと思いつくり、やっちゃおう。なお、『ふるさと鷺別を考える会』では、老若男女（とくに、若い方）、経験不問で、会員募集中です。

最後になりましたが、みなさんのご理解、ご協力に感謝しております。今後ともよろしく願います。
(鷺別町/35歳 三木田智則さん)

決心の経験

私は大阪からスノーボードをするた

めに登別大谷高校に来ました。私がスノーボードを始めたきっかけは、私が中学生だった時にオリンピックのスノーボード競技を見て、ただ単純にかっこいいと思ったことからでした。ほかにも地元を離れて生活してみたいという気持ちもあったので、そう決心しました。その時の決心は、今の私にとつて大成功でした。

最初は、北海道に来てというよりも地元を離れたということに意味がありました。育ってきた町を離れるということとはつらいことでした。まさに「人は失った時にその大切さを知る」という言葉に似た感情でした。そして、高校3年になった2001年に改めて北海道に来て良かったと感じました。

スノーボードは、自然環境に左右されるというところが大阪出身の私には心をひかれる単純なものに感じられました。特に自然環境に関係するスポーツはマナーを守り自然と共に楽しむのだと私は考えます。その次に『スタイル』、『技』が必要だと思えます。

私がスノーボードをしたいと両親に言った時、何の反対もせず私を信じて北海道の高校に入らせてもらったことは、子どもの私でも親の心の広さに尊敬させられました。だから私は今まで心配ばかりかけてきたので、卒業してからは迷惑をかけまいと思いつつ決めました。そして、2002年から自立し、スノーボードを通して自然の中で両親のような広い心を培ってみたいのです。

(桜木町/18歳 二木雄志さん)

『福祉マップ』を持って屋外へ！

私は車イスで生活をしている身障者です。

登別市の『福祉マップ』作成に当たり、準備段階でこの企画に参加をし、自分の目や耳、身体で実際に体験し、調査をすることができました。市民のみなさんへのアンケート調査には苦勞も多くなりましたが、得ることも数多くありました。



登別市には道内一の登別温泉があります。ところが、どのホテル・旅館にも、車イス用のトイレが設置されていませんでした。とっても残念なことだと思えます。でも、きつとそれ以上のサービスが受けられることと思えます。それは『手を貸してくれる』ハート・マークの多いことです。つまり、心のバリアフリーです。

2002年には、色々な障害を持っている人たちも、『福祉マップ』を片手に、屋外へ出かけられることを期待しています。そして、障害者に優しいまち『登別市』を再認識したいものですね。

私たち障害者がまちへ出かけたなら……ハート・マークがまちのあちこちで見られるよう希望しています。

(美園町/54歳 今 順子さん)